

# 琉球大学学術リポジトリ

## 固相抽出法を用いた泡盛香気プロファイルの作成に関する研究

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 玉村, 隆子, 和田, 浩二, 高良, 健作, 仲宗根, 洋子, 石川, 信夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016659">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016659</a>

## 固相抽出法を用いた泡盛香気プロファイルの作成に関する研究

(琉球大学・農学部) ○玉村隆子、和田浩二、高良健作、仲宗根洋子  
(株式会社 石川酒造場) 石川信夫

### 【目的】

泡盛は独特の香味を有する沖縄特産の蒸留酒で、その香りは品質を左右する因子の一つでもある。そのため泡盛の特徴は香りに現れると考えられる。本研究では種々の泡盛について、香気プロファイルの作成を目的として、香気成分の分離、濃縮に際してエタノールの影響が少なく、優れた香気成分保持能力を有するPorapakQ樹脂を充填剤とした固相抽出法の適用を試みた。特に泡盛が幅広いアルコール度数を有することから、香気成分のPorapakQ樹脂への吸着に及ぼすエタノールの影響について検討した。

### 【方法】

泡盛のモデル溶液として標準物質を既知量含むエタノール溶液を用いた。泡盛試料として13度、30度、25度の新酒を用いた。香気成分の抽出はPorapak Q樹脂を充填したガラスカラムに一定量の試料を流して香気成分を吸着させた後、エーテルで溶出して行った。得られた香気濃縮物を脱水、濃縮したのちガスクロマトグラフ分析に供した。内標準として1%シクロヘキサノール水溶液を、外標準として1%トリデカンエタノール溶液を用いた。香気成分の定量は、内及び外標準のピーク面積値に対する3回の分析の各成分のピーク面積比の平均とした。カラムはメタノールと蒸留水で再生し、約20回使用した。

### 【結果】

サンプル中のエタノール濃度は内標準物質のピーク面積値に大きく影響をおよぼしたが、両者の間には直線関係が認められた。モデル溶液を用いて香気成分の回収におよぼすエタノール濃度の影響について検討した結果、エタノール濃度を下げるほど回収率が増加することが明らかとなった。またエタノール濃度の同じモデル溶液200mlと860mlで成分の回収率を比較した結果、内標準物質と各香気成分でそれぞれ回収量の増加率が異なっていた。以上の結果より、エタノール濃度及びサンプル容量を統一することにより、度数の異なる泡盛間の香気成分の比較を行うことが可能であることが明らかとなった。本法を用いて度数の異なる泡盛3銘柄の香気プロファイルを作成し比較した結果、アルコール度数の近い試料間でも有意に差が認められた。